

# 成人の日

はたち  
二十歳の春

## 639人が社会へ門出



周辺

張りつめた緊張、祝福の光溢れる感動の中、私達は今日ここに成人を迎えるにあたりあらためてこの世に人として生まれ、人としての歴史に確実な時を刻むことの大切さを認識すると同時に、来るべき二十一世紀に向かって、新し



成人の誓い・・・桂町 志村英樹

一月十五日、文化会館において第三十三回成人式が行われ、本年は六百三十九人(男三百九人、女三百三十人)の若者が晴れて成人を祝いました。当日は、新成人三百六十人が出席し、会場は華やいだ雰囲気になりました。また、東桂中学校のマンドリンクラブと市民合唱団が、すばらしい演奏とコーラスを披露し、式典に花を添えました。式典は、午前十一時から多数の来賓をむかえ、都留市民歌の合唱でござかに行われ、新成人たちは市長をはじめ各界の代表者の激励の言葉を真剣なおももちで聞き入っていました。また、市長から成人者に記念品として文化財冊子「目で見る都留市の歴史」が贈られました。

い第一歩を踏み出そうとしています。私達の二十年の歴史は、激しく揺れ動く世界情勢の中で始まりました。国内においては高度経済成長と、それに伴う諸問題、特に人間の生命の尊厳が、世論をにぎわしていた時代でした。そして、郷土においては、産業、経済文化と大きく開けゆく都留市に向かって歩き出した時でもありました。今日ここに、新たに成人の仲間入りを果たし、私達をとりまく環境に目を向けてみますと、そこには幾多の様々な問題が提起されています。

高齢化社会、高度情報化社会、飢餓と飽食、最近見直しを必要とされている教育問題等、これらに対し私達は無関心を装ってよいものでしょうか、本来平和で幸福な生活が営まれるはずの人間社会から少しづつ人間性そのものが失われてきているような気がします。現代に生きる若者として、私達ができることは、また、しなければならぬことは何でしょうか。私達は、いつの時代であっても若者が社会を支えていかなければならないということ、また、よりよい社会を建設するということを忘れてはなりません。訪れてくる未来社会に向かって、現在のすぐれた文化を引き継ぎ、よりよい社会づくりのために、一人一人が全精力を注いで努力する覚悟でいなくてはなりません。今その必要性を痛感し、そしてその責任の重大さをあらためて認識せねばならぬと思います。昨年は、山梨県史上最大のイベント「かいじ国体」が、県民一丸となり大成功をおさめました。その結果をもとに郷土がさらに大きく躍進する第一歩の年に、私達が成人式

はたち  
二十歳に思う

飯島 広美



一月十五日成人の日、毎年この日になると、色とりどりの振袖と髪に素敵なかんざしをつけ、着飾った方々が目につきます。そんなとき、私もあんなきれいな着物を早く着てみたいというあこがれをいだいていました。去年はこの日、友達と東京へ買い物に出かけたのですが、そこでもやはりお昼すぎになると式を終えて帰ってきたのでしよう、人ごみの中を歩き来したり、お茶を飲みながらおしゃべりを楽しんでいる振袖姿が目につきました。そしてもうそれから一年、早いものです。気がついたらあこがれの着物を着て、たくさんの人達に祝ってもらった成人式を迎えたのです。二十歳/もう大人の社会へ